

# AI技術がもたらすメディア業界の革新と労働人口減少への対策

近年、世界各国で労働人口の減少が深刻な社会問題となっています。特に先進国では、少子高齢化が進行し、労働力不足が経済成長を阻害する要因となっています。このような状況下で、AI（人工知能）技術の活用が注目されており、様々な産業分野で労働人口減少に対する解決策として期待されています。

本ホワイトペーパーでは、労働人口減少にまつわる社会課題、特にメディア業界における課題を取り上げ、AIを用いた解決策をご提案します。

## 労働人口減少にまつわる社会課題

労働人口の減少は、以下のような社会課題を引き起こしています。

### 1. 経済成長

労働力不足により、企業の生産性が低下し、経済成長が鈍化する恐れがあります。

### 2. 財政

高齢化に伴う社会保障費の増加と、労働人口減少による税収減少が、政府の財政を圧迫します。

### 3. 人手

労働人口減少により、特に労働集約型の産業で人手不足が深刻化し、サービスの質や労働環境が悪化する可能性があります。

### 4. 業務継続

団塊の世代を中心に熟練の労働者の多くが引退することで、ノウハウやスキルの伝承が途絶えます。また、多くの労働者を前提に設計されていた業務も継続が難しくなります。

## 労働人口減にまつわるメディア業界における課題

これまでのメディア業務は、コンテンツの企画・制作からユーザーに届けるまでに係る業務を人手により多能工的に対処/運用してきました。しかしながら、今後確実に人手が減ることが予想される中で、同じ作業量・同じ運用を同じように人が行う形で業務継続することが難しいことは明白です。今後、各企業は業務継続に向けてAI活用ありきの業務整理・役割分担をしていかなければなりません。

また、業界としての品質を維持するためにも、クリエイティブ領域の人的資本を極力維持し続けるための施策が必要と考えています。

## AIを用いた課題解決と価値創造（例）

AI技術を活用することで、労働人口減少にまつわる社会およびメディア業界の課題に対処することができます。また、昨今トレンドである生成AI等の活用により新たな価値創造にもつながると考えます。以下に具体的な例をお示します。

- 1. AIによるコンテンツ制作の効率化**  
 AIを用いた自動記事生成や動画編集ツールを活用することで、人手不足を補い、効率的なコンテンツ制作が可能となります。
- 2. AIによるターゲット層に合ったコンテンツ提供**  
 AIを活用することで、データ分析により消費者のニーズや価値観を把握し、ターゲット層に合ったコンテンツやサービスを提供することができます。
- 3. AIによる広告収益の最適化**  
 AIを用いた広告配信システムを導入することで、効果的な広告戦略を立案し、広告収益の確保が可能となります。
- 4. AIによるコンテンツ品質の確保**  
 AI等を活用し業務プロセス分析を行い、最適化することで現在の業務継続を担保するほか、熟練者ならではのスキルやノウハウの見える化と継承を実現します。
- 5. 生成AIによる労働代替**  
 生成AIを業務に用いることで、知的労働の一部や単純作業を代替し、少ない労働者でも業務継続を実現します。

## AIを用いた課題解決イメージ

### 1 生成AIを用いた業務代替と人間の能力の拡張、新たなサービス創出

- 適用範囲：一般事務業務、クリエイティブ業務、コンシューマー向けサービス
- 利用するAI：対話型生成AIをインターフェースに画像生成AIや動画生成AIなどジェネレーティブAI全般
- 備考：Azure OpenAIによる外部漏洩等の対策を施したセキュアな生成AI活用スキームで実現



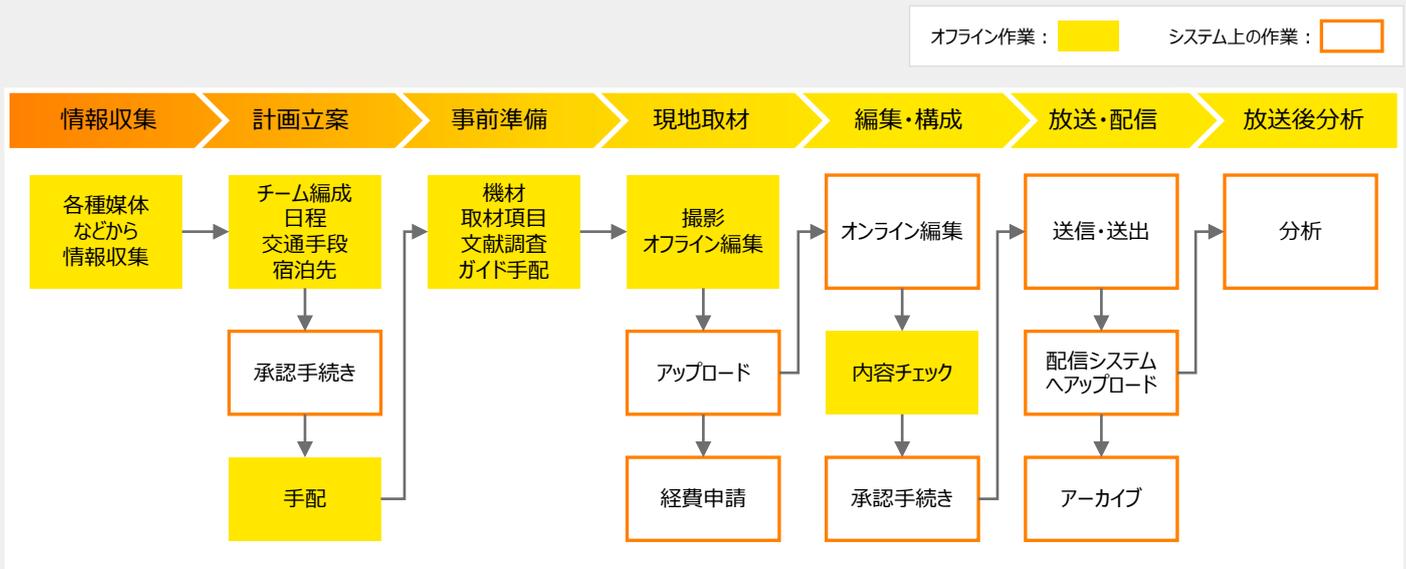
図：ユースケース 放送局における生成AIを用いた業務代替と人間の能力の拡張、新たなサービス創出

## 2 AI等を用いた業務プロセス分析

人が実施する多能工の業務を可視化し分析するには、AIを用いた業務分析が有用です。デジタルツールにより現在の業務をアナログ・デジタル領域含めてすべて分析します。その結果を基に人とAIの共存を前提として業務の最適化を行い、労働人口減少の中にあっても業務継続を実現します。

デジタルツールでは、ある業務におけるプロセスに関して個人的作業やシステムログを一元的に紐づけ、調査に係る現場の負荷を軽減しつつも、抜けもれなく業務分析します。

以下に、「放送局における、ある番組の企画後、取材～放送までにおける一連の業務（例）」にて分析対象イメージをお伝えします。



これらの業務プロセスを可視化。業務プロセスの変更やシステム導入により効率化を図る

図：放送局における、ある番組の企画後、取材～放送までにおける一連の業務（例）とその分析

### 富士通の取り組みやケイパビリティ

#### 富士通のAI関連サービス

##### ● AI kozuchi（共創）

Fujitsu Kozuchi (code name) - Fujitsu AI Platformは、富士通が研究開発した先端AI技術を迅速に試すことができるプラットフォームです。このプラットフォームを構成するユースケース単位の「AIイノベーションコンポーネント」と富士通のAIコア技術「AIコアエンジン」を活用することで、スモールスタートで高精度な検証結果を得ることができます。

Fujitsu Kozuchi

<https://www.fujitsu.com/jp/about/research/technology/ai/fujitsu-ai-platform/>

##### 関連技術

対話型生成AIの幻覚（もっともらしい誤りを回答）やAIを騙す敵対的攻撃に対処できるAIトラスト技術を開発し、「Fujitsu Kozuchi (code name) - Fujitsu AI Platform」で提供を開始いたします。この技術により、信頼できる対話型生成AIの実現に寄与します。

プレスリリース

<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2023/09/26-1.html>

## ● 生成AI導入支援

- コンサルティング：弊社グループでの実践知も基にしながら、適用する業務の検討やアイデア発想、システムイメージやガイドライン作成などを行います。社員のリテラシー向上施策などにも取り組みます。
- システム構築：ビジネス利用を前提に、入力したデータがAIモデルに活用されることを防ぐなど、情報管理・セキュリティ対策を施すため「Azure Open AI Service」で環境を構築します。
- 拡大施策検討：すでに導入済みの「Azure Open AI Service」のさらなる活用方法のコンサルティングを行います。

## ● デジタルBPR（業務プロセス分析）

富士通は、なかなか進まないDXの課題を解決し、お客様の業務プロセス改革・DXの実現に向けて、Celonis社のプロセスマイニング技術と弊社の先進デジタル技術（データサイエンス、IoTなど）を組み合わせ、ビジネス価値の創造を支援します。

デジタルBPR

<https://www.fujitsu.com/jp/innovation/data-driven/capabilities/data-utilization/digitalbpr/>

## ● ナレッジの活用・継承

Fujitsu ナレッジ活用基盤 Know-Flow DX（以下、Know-Flow DX）はお客様や利用者のサービス向上と業務の効率化・低コスト化を同時に実現する、AIを活用したナレッジの整備・検索・共有のためのソリューションです。みんなで知識を育てて賢く成長し、熟練者の知識の活用・継承を可能にします。

Fujitsu ナレッジ活用基盤

<https://www.fujitsu.com/jp/solutions/business-technology/smart-digitalwork/knowledge-management/>

## ● 需要予測

富士通は、特徴の異なる複数のモデルを用いて予測を行い、機械学習により各モデルの統合比率をダイナミックかつデータ起点で自動最適化する富士通独自の「動的アンサンブル予測」技術により、高精度で安定的な需要予測を実現します。

需要予測

<https://www.fujitsu.com/jp/innovation/data-driven/theme/demand-forecast.html>

## Special

### ● 富岳×生成AI

スーパーコンピューター「富岳」を活用した大規模言語モデル（LLM）によるサービスを検討中です（現在開発中）。よりセキュアな環境で、企業ごとのニーズに合わせた生成AIサービスにより新たな価値を創造します。

プレスリリース

<https://pr.fujitsu.com/jp/news/2023/05/22.html>

その他にも様々なAIサービスを提供しています。

## 富士通のケイパビリティ

AIに関する当社のケイパビリティについてご紹介します。大きく4点ございます。

**1** 当社はAIを研究開発の重点テーマ（key technology）に位置づけ、持続可能な社会の実現に向け、社会やビジネスの変革につながる新しい価値を創出する最先端AI開発と、AIが社会実装される際のリスクや障壁を解消する信頼されるAIを提供するための研究開発に取り組んでいます。

AI <https://www.fujitsu.com/jp/about/research/key-technologies/ai/index.html>

**2** AI倫理にも留意しています。例えば、説明可能なAIの開発を行い、「富士通グループAIコミットメント」を掲げるほか、「AI倫理ガバナンス室」の立ち上げなど倫理的AIの実用化に取り組んでいます。

AI倫理ガバナンス <https://www.fujitsu.com/jp/about/research/technology/ai/aiethics/index.html>

**3** Fujitsu Kozuchi (code name) – Fujitsu AI Platformにより、AI実用化に向けてオープンイノベーションに取り組んでいます。

Fujitsu Kozuchi <https://www.fujitsu.com/jp/about/research/technology/ai/fujitsu-ai-platform/>

**4** 富岳×生成AI：「富岳」の計算パワーを活用し、圧倒的な規模の日本語言語モデルの開発に挑んでいます。

フジトラニュース <https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsutransformationnews/2023-07-20/01/>

## 富士通の目指す姿

人工知能（AI）は人間の能力をさらに高め、新たな発見や革命を起こす最も強力なエンジンの一つです。AIは進化を続けており、今では様々なビジネスシーンや日常生活に溶け込むまでに至っています。また、ChatGPTに代表されるような対話型生成AIが世の中に現れたことで、今までになく大きな変化が生まれはじめています。しかしながら倫理面などを筆頭に様々な課題があることも実情です。

そのような状況の中、企業としてはAIを活用した業務変革、ビジネス変革に取り組み競争優位を確立することは必須となっています。お示したように、現在当社はAIをKey technologyに位置づけ様々な研究を行い、オープンイノベーションのためのプラットフォームの提供も開始しています。

これらによりAI技術を様々なステークホルダーとともに進化させるとともに、お客様との共創によってAI活用の新たなユースケースを探索してまいります。



## 最後に

労働人口減少は、世界各国で深刻な社会課題となり、こと日本、メディア業界にも様々な課題をもたらしていますが、AI技術の活用により、これらの課題に対処することができます。今後も、AI技術の進化により、労働人口減少による社会課題の解決が期待されます。

解決に向けて検討項目は多く、ビジネスにおける実用化に向けて課題も多いと認識しています。まず一度会話させていただきたく、各メディア企業様へのお願い事項としてまとめいたします。



詳細については「メディア&エンターテインメントDX」Webサイトをぜひご覧ください。  
今後もメディア業界における最新の事例や技術情報などを継続して発信してまいります。

トップページ | <https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/media/index.html>

新規ビジネス・新たな価値創造 | <https://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/media/startup/>

### お問い合わせ先

富士通株式会社

メディア&エンターテインメントDXサイト事務局

Tel 0120-933-200

E-mail [contact-media1@cs.jp.fujitsu.com](mailto:contact-media1@cs.jp.fujitsu.com)

Web <https://contactline.jp.fujitsu.com/contactform/csque33201/195296/>